

## 古文書と図書館員—「松井文庫」冊子体文書目録作成に携わって

今回の作業に携わったことで図書館員が得た知識や体験について少し書いてみます。

### 📖 時代劇のお役所で見たような？

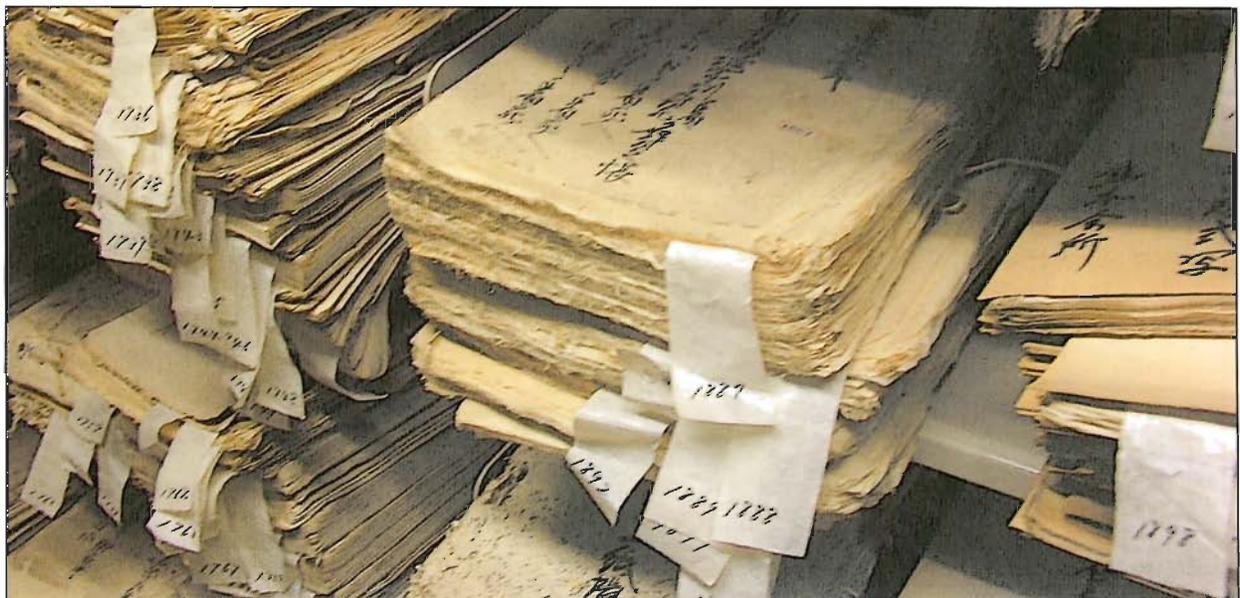
さて調査対象の冊子体文書ですが、「どんな文書？」と疑問に思われるかもしれません。

写真(1)をご覧ください。どこかで見たことはありませんか？時代劇でお役人が机上に帳面を開き、筆を取っている姿を思い出してください。背後には、帳面を数冊ずつ平積みした棚が並ぶ場面が出てきますが、その帳面が冊子体文書です。

### 📖 虫喰い文書 利用と保存

古い文書に虫喰い(虫損)のあとがあり、写真(2)のような状態です。これも見たことがあると思われるでしょうか？冊子体文書の中にも長い年月を経て虫損や水濡れ、破れなどで状態の悪い文書がありました。

「松井文庫」を本学へ受入れる際、一部の文書には裏打ちなどの補修を施したようですが、全ての文書を修復することはできず、虫損状態のままになっているものがあります。特に虫損の激しい



写真(1)冊子体文書

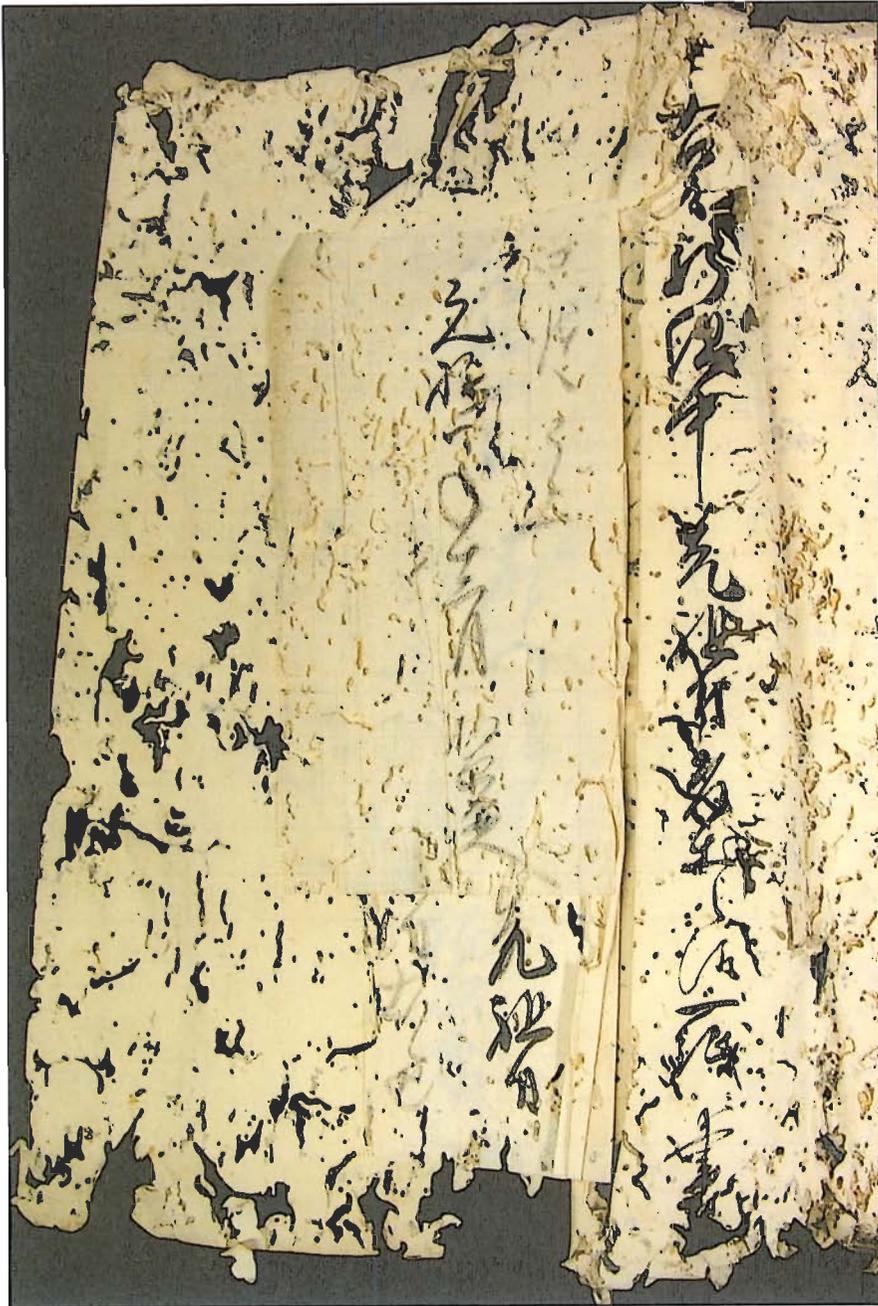
「松井文庫」冊子体文書には、様々な日記や記録類があります。三つほど例として文書名をあげてみますと、冊子体文書には、その当時の出来事やニュースが記録として残されていることがわかります。

- 1505 参府日記(天保12年4月～5月)
- 1552 唐船漂着之節覚書(宝永3年8月)
- 1560 異人御取扱之儀に付薩州様より被差廻候諸書付等写(安政2年10月14日)

ものは開くこともありませんでした。

目録作成にあたっては文書の保存と利用の両面を考慮しました。マイクロフィルムや翻刻資料でも読むことができる文書は、マイクロフィルムのリール番号や翻刻資料の存在情報を記載していますし、なお、それ以外でも文書の状態で特記すべき事項(虫損など)は備考欄に記入しています。

文書の修復には費用がかかるためすぐに着手することは困難ですが、後世へ伝えていく大切な史



写真(2)虫喰い文書

料として修復対策をはかることも図書館のこれからの課題といえましょう。

### 📖 古文書の道は続く、どこまでも

「松井文庫」には、冊子体文書以外に一紙文書いっしもんじょもあります。一紙文書には、「細川豊前書状」や「阿蘇山衆徒誓文之写」などこれまた種々の文書があり、一紙文書の目録は今のところ暫定版です。

そのために、古文書勉強会では現在、一紙文書の目録作成に取り組んでいます。

ただし、作成するスピードは冊子体文書と比べて遅くなりました。一紙文書が冊子体文書とは異なり、差出人や宛名など記入する項目が増えたからです。その上、「松井文庫」一紙文書は総点数が非常に多いため、全ての作業を図書館員で行うことは困難であることが明らかになりつつあります。今後は、冊子体文書や一紙文書の目録作業で得たものを活かし、長期的な目録整備の方針をたてて取り組んでいくことになるでしょう。

### 📖 おわりに

図書館内に古文書を所蔵していても、通常、古文書担当者以外の図書館員が業務として古文書を手にとる機会はほとんどありません。今回、冊子体文書目録作成に携わったことは、古文書の活用に向けて古文書の専門家ではない図書館員として何ができるのか、古文書の利用と保存について学ぶ良い機会になったと思います。